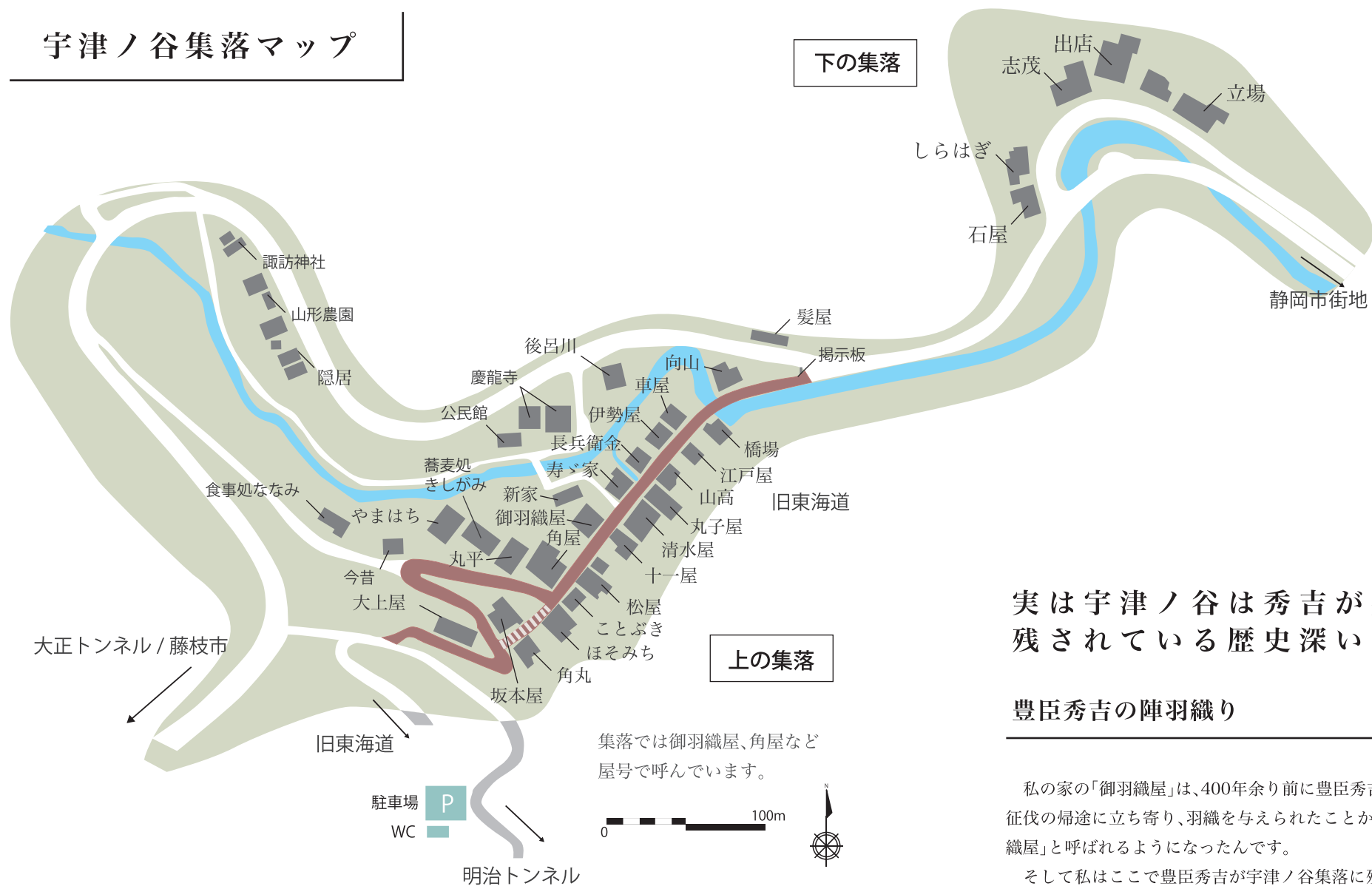


宇津ノ谷集落マップ



▲旧東海道から見た御羽織屋



▲御羽織屋の中の様子

実は宇津ノ谷は秀吉が残した逸話が
残されている歴史深いまちなんですよ。



屋号：御羽織屋 石川ときさん

豊臣秀吉の陣羽織り

私の家の「御羽織屋」は、400年余りに豊臣秀吉が北条征伐の帰途に立ち寄り、羽織を与えられたことから「御羽織屋」と呼ばれるようになったんです。

そして私はここで豊臣秀吉が宇津ノ谷集落に残した逸話を訪れた人達に伝えています。

小田原の北条氏征伐のため、東海道を下った秀吉は、この地に差し掛かり、石川家の軒下につるしてあった馬の沓に目をとめて使い古した自分の沓と取り替えようとしていました。ところが、主人は三脚分しか差し出さなかったので、「馬の脚は4本なのにどういふことだ」と尋ねました。すると「残る一脚分でお戦のご勝利祈るつもりでございます。」と答えました。秀吉が名前を尋ねると忠左エ門と答えました。そして秀吉は山の名前を忠左エ門に尋ねると、あれは勝山、その大木は、勝の木だと答えます。すると秀吉は「勝山に勝の木か、それはめでたい。戦には必ず勝って帰るぞ」と、機嫌良く出発していったそうです。それから半年間忠左エ門は、毎日秀吉公の戦の勝利を祈りました。

郷民の機知に秀吉は喜び、自ら着用していた陣羽織を与えました。この功により、この石川家は名字、帯刀を許され屋号を「御羽織屋」としたんです。また10年後に徳川家康が呉須の茶碗を贈っています。

その後、峠を通る諸大名が、この羽織と茶碗にあやかりたいと言ってたくさん訪れたそうです。15代將軍徳川慶喜も「鳶の細道」の銘が入った赤絵の茶碗を贈りました。

なかには大阪から本物を見に来てくれる方もいらっしやるんです。

私は、藤枝から宇津ノ谷に嫁いできました。お店は少ないですがこの静かで落ち着いた空気が気に入っています。これからも、このまちが歴史深いまちであるということを皆さんに知ってもらいたいです。

語り部たちが伝える宇津ノ谷

一度訪れただけでは気づけない、暮らしてみてもわかること。

この土地に住み続けている人々が伝えたい魅力が宇津ノ谷にはあります。

そんな「宇津ノ谷で暮らしていて良かった」を住民の皆さんに語っていただきました。